

野学校でございませ

野

学校は、「のがっこう」でなく「やがっこう」であります。

歴(れつき)とはしていないけれども学校であります。文科省とは無関係だが学校であります。文科省と無関係であることを少し誇らしく思ってもいる学校であります。

なぜ学校かと言えば、校章があるからであります。校章のバッヂがあるからであります。校長がいるからであります。小使がいるからであります。始業の鐘だつて授業だつてあるし、授業料だつてある。

これだけ条件が具備されていれば立派な学校であります。と理事(スタッフ)全員は思っているから学校であります。

野

学校のキャッチフレーズは「バイキンからクジラまで、みんなで学ぼう野学校」です。

種の多様性と国際的に唱えながら、どうしてバイキンは殺していいのか、誰かに聞きたいなあ。

そう言う聞きたがり屋のおじさんおばさんたちが集まって学校となつたわけがあります。

幸いなことに私たちの仲間にはそれらに応えてくれる知識と経験と豊かな人間性を兼ね備えた人たちがいるのだからありがたいのであります。

野

学校の教授(レベルが高いので全ての仕組みは小学校のイメージだが講師は教授と称す)を、誰にお願いするかという選定が一番心を配るところで、先ず第一の評価基準となるのが「変さ」であります。

変

であれば変でありますほどいいのであります。ご本人が変な人、変な物を研究または調査をしている、時々変なことを口走る等々変さ度の高い人がいいのであります。

も

う一つ別の尺度もあります。それは、今聞いておかないと絶対後悔するという話をお持ちの大先輩。私たちは今までどれだけ後悔したことか、そのような後悔を繰り返さないためにも「残日」の少なき方を優先させて頂くのはいうまでもありません。

そしてこういう方々は充分変な人でありませ。

つまり、教授の選択基準は「変さ値」の高い人ということになります。それを理事(スタッフ)の合議によって決められているのであります。

そう、ツバメの調査をしている人よりツバメの足の裏にいるダニの排泄物だけを研究している人の方が「変さ値」は高いよな、とみんなで話し合つて決めるのであります。

かくして教授が決定されることになる

のですが、それは野学校側の決定で、ご本人がどう思つてくださるかにはわからない。というのも野学校は満足頂けるような謝礼を用意出来ないからであります。野学校の教授への謝礼は、「寄席の「割」」方式であります。

つまり当日の授業料一人千円に、出席生徒数を乗じた金額から会場使用料を引いて、それを野学校と教授とで折半する、ということになっているのだからなかなかお願いしづらいものでもあります。ちなみにスタッフ(理事)は全員ボランティアで全てに手弁当で当たっています。野学校からは、茶一杯出ないのであります。

野

学校は、仲間の話があまりにも面白くて「こんな面白れえ話を俺たちだけで聞くのはもったいないなあ」と言うことではじまつたイベントで、みんな面白がれることが嬉しくてやつてる学校なのであります。

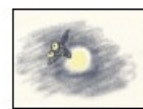
だから、もう少し授業回数が多い方がいいと言つて要望もあるのですが、ボランティア理事の負担が重すぎると長続きしない。ま、年四、五回だろう、つて決まつた授業回数なのであります。

気楽に楽しく、面白く、いつまでもやっていきたいなあ。そういう理事達の思いでスタートした野学校は、今なおいい感じで継続中なのであります。



野学校校歌

一 頬撫でる風縁にそよぎ
闇の川面にウーと溶ける
堂と蛇ノ目は同じように光る
君知るや、人の世の真贋を
いざ学ばん、いざ遊ばん
我らが集う野学校



二

滝のしぶきは虹となる
いずれを先に食すべき
泣いてくれるな鰻(カジカ)と河鹿
(カジカ)
アカシヨウビンも泣いている
いざ学ばん、いざ遊ばん
我らが集う野学校



三

海を渡つてメリケン下
マルコポーロも知っている
寂しからずやカモメとやもめ残日録
をふわり飛ば
いざ学ばん、いざ遊ばん
我らが集う野学校

